

## 別紙

### インフルエンザウイルスの検体の採取方法について

#### 1 保健所において実施する事項

- (1) 検体の採取（患者の咽頭部または鼻腔を綿棒でぬぐった液を採取する。）
- (2) インフルエンザウイルス分離調査表の作成（別紙1の各項目について調査し、記入する。）
- (3) 検査対象となった施設等におけるインフルエンザ流行期間の把握

#### 2 検体採取対象者

- (1) 対象者は発病初期の患者（発病3日以内で抗ウイルス薬を服用していない者）に限定すること。（病日の進行に伴い、咽頭へのウイルス排泄量が減少し、ウイルス検査においてウイルス分離率が低下するため。）
- (2) 1施設について5名から10名の患者を対象とする。

#### 3 咽頭ぬぐい液の採取方法について

患者から次により咽頭ぬぐい液を採取する。

- (1) 乾燥した綿棒で、咽頭上部等を擦過し、その綿棒をぬぐい液に浸す。
- (2) 綿棒の軸を折り、蓋をしっかりと閉める。
- (3) 油性マジックを用いて試験管に番号と患者名を記入する。

#### 4 検体の保存及び搬送について

- (1) 採取した検体（咽頭ぬぐい液）は冷蔵し、速やかに環境保健研究センターに搬送する。
- (2) 保健所に検体を保存する場合は冷蔵庫に保管する。搬送には保冷剤を入れた発砲スチロール製の容器を使用する。
- (3) 検体にはインフルエンザウイルス分離調査表（別紙1）及び検査依頼書（別紙2）を添付する。

#### 5 使用する器材の保管について

- (1) ぬぐい液及び綿棒は室温保存すること。
- (2) ぬぐい液及び綿棒の容器包装に記載されている使用期限を遵守すること。
- (3) 器材は環境保健研究センターから送付する。

#### 6 検査対象となった施設等におけるインフルエンザ流行期間の把握

施設内での流行終息後、保健所は施設等からインフルエンザ流行期間を確認し環境保健研究センターに報告を行う。（ウイルスが検出された場合には、環境保健研究センターから、国立感染症研究所感染症情報センターに報告するが、その際流行期間の情報が必要であること。）

(別紙 2)

文書番号

年月日

環境保健研究センター所長 様

保健所長

## 試 験 検 査 依 頼 書

このことについて、下記のとおり試験検査を依頼します。

記

依頼番号	
------	--

試験・検査項目	インフルエンザウイルス
---------	-------------

検体番号	検体名	生年月日	検体採取日	備 考
		検体の詳細は、別紙 1 のとおり		

担 当
職・氏名
電話
FAX
E-mail